

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24年 5月 18日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520053

研究課題名（和文）密教流伝史研究－インド・チベット密教翻訳僧データベースの構築－

研究課題名（英文）Database-Making on the Tibetan Tantric Buddhist Translators

研究代表者

桜井 宗信（SAKURAI MUNENOBU）

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30292171

研究成果の概要（和文）：本研究では、著名なチベット人学僧5人が残した『聴聞録』（師弟関係を学修内容と共に記録した一種の系図集）を主たる資料として、その密教に関係する部分を校訂・解説し、検索容易な電子ファイル化を図ると共に、その成果を踏まえてインド・チベット密教界に広く流布した重要な密教経典の1つである『ヘーヴァジュラタントラ』に関連する文献の翻訳者達の基本情報を収めたデータベースを構築し、『聴聞録』利用の一方法・手順を確立した。

研究成果の概要（英文）：The results of this study are as follows: 1) editing the part of *gSan yig-s* relating to the Tantric classes recorded by famous 5 Tibetan Priests (Bu ston etc.) into the electronic texts, which make search and access the contents easier 2) making a database on the Indo-Tibetan Buddhist Tantric translators on the *Hevajratantra* circle using the result 1).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：インド密教学・チベット密教学・聴聞録・翻訳僧・密教流伝史

1. 研究開始当初の背景

マスメディアの発達していなかった古代世界において、文化は個々人の熱意と努力とによって伝播を見る。「法は人を俟って広まる」という言葉が示すように仏教もまたその例外ではなく、物理的・人為的障害をものともせず、教義と求法の意志を背にした多くの信徒がインド亜大陸の内外を果敢に行き来したことにより、その法統が伝えられていた。しかし残念ながら、纏まった史書の伝えられていない状況も災いして、長期間にわたる仏教徒の営為は今もって明らかでない部分

が多く仏教流伝史の全体像はその多くが闇の中に沈んだままである。

しかしながらそれが如何に追求困難なものであっても、「いつ誰の手を経て如何なる教義がどのような経緯・経路で伝えられたのか」は、広く仏教文化を理解しようとする際の根本課題として追求されなければならない。

法が人に依るのであれば、その伝承と流布は、それを正しく学び取った者達が断絶することなく受け継いで行く中で達成されるものであり、従って教義の正統性は、師から弟子への流れ＝法

統」の正統性によって保証される必要がある。そこで“自らが仏に由来する正統な法統に属する”ということを確認し証明するために、仏教者には師資相承の具体像を記録(或いは記憶)する習慣があった。それが(相承系譜(グルパランパラ))と呼ばれるものである。

当報告者(桜井)は「Vajraśekhara Tantra の一考察」(『智山学報』第 35 輯)執筆時以来積極的に(相承系譜)の読解を試み、その理解に必要な十分な知識の蓄積に努めると共に、成果の一部は学位請求論文の改訂版である『インド密教儀礼研究—後期インド密教の灌頂次第—』(法蔵館)においても活用し、『秘密集会タントラ』や『チャクラサンヴァラタントラ』に属する儀礼系統(流派)の明確化を図る論拠の一つとして用いた。後者との関連で行ったチャクラサンヴァラ・ルーイーパーダ流の儀礼研究においても、Bu ston 等の著名なチベット人学僧が伝える同系譜を検討することによって、同じルーイーパーダ流を標榜しながらも、その方軌がインド・チベット両地域において全く異なった人々の間で伝えられたこと、更には Bu ston のような複数の系譜を同時に受け継いだ者が自らの判断で新たな解釈を作り出していったこと、という何れも同流の具体的な展開過程を明確にする重要な情報が得られた。

一方で(相承系譜)は、そこに記録された伝統の起源を考える上でも貴重な資料となる場合がある。このような業績の例としては、羽田野博士がシャーキャシュリーバドラのサンヴァラ解釈が彼独自のものであることを《持金剛(サンヴァラ)―シャーキャシュリーバドラ…》という系譜の在り方に見出せると指摘している点が挙げられる。すなわち、シャーキャシュリーバドラが直接尊格たる持金剛から教えを授かったことを主張するこの系譜は、その信仰上(或いは神話的な枠組み上)の意味合いとは別に、彼の解釈が至高の存在に権証を求めなければならないような性質のもの、事実としては彼自身の創案に係るものであったことを物語っている、というものである(『チベット・インド学集成』第 1 巻, p.249)。

この「羽田野理論」と称すべき考え方は、一流派の起源を決定する上で大変有益であって、Bu ston の伝える(相承系譜)にはシャーキャシュリーバドラの例以外にも至高存在から直接教誡されたという形式の伝承は幾つも存在するため、それに基づき流祖・流儀の独自性をより確実に認定し得るのであり、申請者もこの「理論」を用いてガンターパーダ及びアバヤーカラグプタの示す儀礼内容が彼ら自身の案出に由来することを上掲『インド密教儀礼』において論じている。

以上のように(相承系譜)から引き出せる情報は、記録された法統自体に由来するものの他に、その内容を敷衍解釈することに基づくものも存

在するため、読み込もうとする意図に応じてその用途がより広がる可能性を潜在させており、その資料価値は高い。

にも関わらず、それに文献学的処理を加え容易に参照可能な形態に整理し提示している例は皆無であり、利用しようとする研究者は、目次など指標の何ら存在しない木版刷の一次資料を、多くの時間と労力を割きつつ一種手探りの状態で検索しなければならない状況にあった。

2. 研究の目的

本研究は、上述の通り貴重な資料でありながら十分な整理の行われて来なかったこの(相承系譜)を取り上げ、文献学的批判を加えて記載内容を確定した上で、特に報告者の専門領域とする密教分野に焦点を当てて、“インドからチベットへ流伝した方軌・流儀が、如何なる人々が担い如何なる経過で流布したのか”という人から人へ線で繋がる時間軸に沿った解明を行う。

その一方で、「チベット大蔵経」目録部に「翻訳者」として名を残している者を中心にインド・チベット間の密教伝播に貢献した学僧達を選び出して、仏教史書をも参照しながら各人を個別・面的に捉え、“著名な各密教学僧が、いつ誰からどのような教えを受け、そしてそれを誰に伝えたのか”という《密教学僧の戸籍》と呼ぶべき基本データを整理することを目的としている。

3. 研究の方法

従来、検索に適さない木版刷りの形体でのみ使用されてきた(相承系譜)を、“「聖典の翻訳者」という核になる人物に焦点を当てたデータベースを作成する”という工夫によって資料の全体を見通しの良いものにするを目途とし、以下のような手順で電子ファイル化し、データベースとしての再構築を図った。

(1)、研究全体の基礎作業である(相承系譜)の校訂整理作業を次のように進めた:

①、底本となる『Bu ston 聴聞録(Toh5199)』より密教に関連する系譜を選別し、データを表計算ソフト(Excel)に入力した。

②、『Bu ston 聴聞録』は現在 Sol 版以外に参照し得ず数版対照による校訂が出来ないため、多くの系譜を共有している次の4聴聞録を複写によって収集して同録との異同を確認し、検索とデータの移管・応用を簡便化するべく表計算ソフト上の別フィールドに記録した:

- ・『Phgs pa 聴聞録 (サキヤ派全書 Vol.6)』
- ・『Tsong kha pa 聴聞録(Toh5267)』
- ・『mKhas grub 聴聞録(Toh5457)』
- ・『Ngor chen 聴聞録 (サキヤ派全書 Vol.9)』

(2)、“著名な密教学僧に関する個別のデータベース《密教学僧の戸籍》”作成に向けた予備作業として、「チベット大蔵経」密教部の諸翻訳者に関してこれまで先学が明らかにしてきた知見

を体系的に整理・理解するため、関連する書籍及び学術論文を蒐集・参照し、データベースに繰り入れるべきデータは電子データとして記録に留めた。

(3)、〈相承系譜〉と並んでインド・チベット密教流伝史に手掛かりを与えてくれる重要資料である次の2史書：

- ・gShon nu dpal 著 Deb ther sngon po
- ・Taranātha 著 rGya gar chos 'byung

を読解して両書の記す密教翻訳僧に関する記述を検索し、活動地域や時期・師資相承関係などの重要事項を採取した。

(4)、梵蔵密教翻訳者の基礎的データを収集するために、「チベット大蔵経」仏説部・論疏部所収のうち無上瑜伽タントラ部所属諸書の奥書に焦点を絞り、その記述を電子ファイル化し、併せて和訳した。

(5)、前述の作業によって収集したデータを用い、実際にデータベース(《密教学僧の戸籍》)の構築を行った。

その際に見出しとなる項目は「チベット大蔵経」の翻訳者を中心としたインド・チベット密教学僧であり、その下に次の諸項目を置いて各人の学的系譜・事蹟が一目瞭然となるよう配慮し、HTML形式のファイルに纏めた。

データベースに収載した事項は以下である：

- ・活動時期、生没年代
- ・尊称、渾名等の別名
- ・翻訳文献名
- ・相承流儀及び師名・弟子名
- ・先行研究及びその典拠

4. 研究成果

(1)、上記「3. (1), ②」で挙げた Bu ston 以下5名の『聴聞録』について、密教に関連する箇所の電子ファイル(Excel ベース)を完成させた。

何れもチベット仏教史上に重要な位置を占める学僧達であり、彼らの修学・受法状況が検索容易な形で纏められたことは、インドからチベットへの密教流伝史研究に今後多大な便宜が与えられることになる。

Web 上での閲覧に適する形に調べた上で、適切なサイトでの公開を行う予定である。

(2)、インド・チベット両密教世界において多大な尊崇を集めその教義と儀礼の流布を見た『ヘーヴァジュラタントラ』に関連する諸聖典・註釈書・儀礼文献等について、具体的に「密教翻訳僧データベース」を構築した。

同タントラはその広範囲な流布にも関わらず、『チャクラサンヴァラタントラ』や『グフヤサマージャタントラ』のように「流派」の存在が従来明確にされていなかった。しかし当該データベースでは、(1)の成果により同タントラに流派を措定する解釈のあったことが判明した点を踏まえて、『ヘーヴァジュラタントラ』関連典籍の翻訳者達とその流儀伝承に深く関わっていたであろうことを明確に示し、同タントラ流伝史研究に重要な資料を

提供した。

当該データベースは技術上のブラッシュアップを施して然るべきサイト上で公開する予定であるが、更に同一の構築手順に則って他の諸タントラに関わる翻訳僧のそれをも順次作成して追加し、データベース全体の発展と更なる有用化を図る。

(3)、各『聴聞録』の検討を通じて得られた新たな知見に基づき、以下の個別の研究成果を得た：

①、父タントラを代表する著名な経典『グフヤサマージャタントラ』に関わる〈相承系譜〉を『聴聞録』を用いて検討し、その成果を踏まえた上で、同タントラ2大流派の一つ聖者流に属する密教僧 Aryadeva に帰される「荼毘儀軌」の読解・解析を行って、同流が伝えた葬送儀礼の性格と特徴を明らかにし、「聖者流の伝える荼毘儀礼」と題する論文に纏めた。

②、Bu ston と死者儀礼との関わりを彼の『聴聞録』上で同定した上で、「Bu ston 全書」に収められている死者儀礼を扱う4書を読解・比較してそれらの基本性格を明らかにすると共に、特に『Śrīparamādyā 金剛薩埵によって臨終者達を撰受する儀軌』の詳細を考察し、「Bu ston の伝える死者儀礼(1)」と題する論文に纏めた。

③、各『聴聞録』を用いて、母タントラを代表する著名な経典『チャクラサンヴァラタントラ』に関わる〈相承系譜〉の検討・解析を行い、“現存「チベット大蔵経」に同タントラに従う数多くの儀礼典籍が残されているにも関わらず、その伝統の流布が記録されているものは数少ない”という事情を明らかにしたが、その成果を踏まえた上で、同タントラを奉ずる著名な密教僧の一人である La ba pa (Kambalapāda)が著した「成就法」の読解・考察を行って、彼の構想した観想法の特徴を論じてチベットにおける流布の要因を推定し、「La ba pa の『チャクラサンヴァラ成就法』」と題する論文に纏めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 桜井宗信、La ba pa の『チャクラサンヴァラ成就法』—その構成と観想法—、密教図像、査読無、30、2011、pp.1-18

② 桜井宗信、Bu ston の伝える死者儀礼(1)—*dPal mchog rDo rje sems dpa'i sgo nas tha ma'i dus la bab pa rnams rjes su 'dzin pa'i cho ga*を中心—、日本西藏学会会報、査読有、56、2011、pp.1-16

③ 桜井宗信、聖者流の伝える荼毘儀礼—hPhags pa lha(*Aryadeva)に帰された著作を中心—、現代密教、査読無、21、2010、pp.67-79

[学会発表] (計2件)

- ① 桜井宗信、La ba pa に帰される「チャクラサンヴァラ成就法」－その構成と特徴－、密教図像学会、2010年12月11日、四国大学
- ② 桜井宗信、Bu ston の伝える死者儀礼－*dPal mchog rDo rje sems dpa'i sgo nas tha ma'i dus la bab pa rnam rjes su 'dzin pa'i cho ga*を中心に－、日本チベット学会、2010年11月13日、東洋大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桜井 宗信 (SAKURAI MUNENOBU)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：30292171